

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2016年度 助成者)

作成日 2016年9月19日

氏名	本村 朋子
研修先機関名	<u>Hawaii Tokai International College</u>
研修期間	2016年8月15日(月)～20日(土)
大学名	防衛医科大学校
学年	5年

この度、日米医学医療交流財団の助成を賜り、医学部夏期集中医学英語研修に参加致しました。

朝の8時半から夜の9時までの過密スケジュールであることだけではなく、得られたものの非常に多い、充実した1週間でした。

私は将来的に臨床留学を志しておりますが、臨床の現場で通用する英語の運用能力が低いままでは、臨床留学をしても得られるものが少ないのではないかと懸念がありました。留学を単なる物見遊山に終わらせたくない、という思いがあり、このプログラムに応募しました。結果として、臨床留学や海外の実習参加に必要なとされる能力を育成するという目的の本プログラムは理想的なものでした。

簡単に内容を振り返りますと、**Medical English** では英語で医療面接や症例発表の練習を行い、ハワイ大学(UH)医学部の学生さんとも医療面接を練習し、**Medical Ethics** では具体的な事例をもとにディスカッションやプレゼンテーションを行いました。Kuakini Health System や、St.Lukes Clinic、UH Cancer Center の見学を通して、アメリカの医療にも触れることができました。

当然のことですが、日本語で表現できないことは英語でも表現できません。普段から何事も自分の頭で考え、意見を持つことの大切さを痛感しました。特に **Medical Ethics** では最初はなかなか自分の意見を英語で表現できず、もどかしい思いをしましたが、日毎に慣れていくことができました。

私は医学教育に興味を持っているので、卒後教育の **standardization** である **ACGME** のお話が印象に残りました。**Art** (文系)と **Science**(理系)のうち、医学は **Science** だと思われがちですが、**Science** の分野では人間が機械に取って代われつつあります。そのため、アメリカでは既に **Art** の部分に重きを置かれる傾向にあり、**USMLE** にも反映されているそうです。こういった講義は大変勉強になりました。

ハワイでレジデントをされている先生の講義の中で「英語ができるようになったら留学しようと思ったら、いつまで経っても留学できない」というお言葉があり、まさにその通りだと思いました。私は帰国子女というわけでもなく、留学歴もなく、考え方も日本人そのものだったので、この一歩を踏み出してみても本当に良かったと思います。さらに個人的なことを述べさせて頂くと、防衛医大というある種の特殊な環境におりましたので、このプログラムにより視野を広げることができ、将来の展望を掴むこともできました。そして、いかに自分が恵まれた環境にいるか等、学びも多くありました。留学の準備期間を含め、自分の実力不足を痛感してきましたが、今後はこの経験を活かし、さらに努力していこうと思います。

このプログラムでは、全国の医学部から集まった、他の参加者の方々にも大変刺激を受けました。皆さん医学の面でも英語の面でも優秀で、様々なバックグラウンドをお持ちでした。今後もこのご縁を大切にしていきたいと思っています。

このプログラムにご尽力頂いた全ての方々に心よりの感謝を申し上げ、研修報告書とさせて頂きたいと思っております。ありがとうございました。